

## 令和3年度 事業者向け放課後等デイサービス自己評価表を公表致します。

通所支援事業所なないろでは提供するサービスの質について職員が評価・点検を行いました。

自己評価の結果を踏まえ、支援内容の改善を図るべく自己評価の内容を公表し、子どもたちの支援に活かすと共に、職員の支援技術のスキルアップを図っていきます。

自己評価実施日 令和3年2月1日

対象者 4名

回答数 4名

	チェック項目	改善目標、工夫している点など
環境・体制整備	① 利用定員が指導訓練室等スペースとの関係が適切であるか	利用定員10名に対して、基準以上に確保しています。
	② 職員の配置数は適切であるか	設置基準人員の他に児童指導員を配置しています。
	③ 事業所の設備等について、バリアフリー化の配慮が適切になされているか	バリアフリー化も適切になされているとともに、必要な場所に手すりが設置されているなど、子どもたちに必要な配慮がされています。
業務改善	④ 業務改善を進めるためのPDCAサイクル（目標設定と振り返り）に、広く職員が参画しているか	日々職員が参加した振り返りと、次に繋がる目標を設定する時間を作るよう努力しています。また、月に1回は必ず非常勤職員も参加しての職員会議・研修を行い、業務改善を進めています。
	⑤ 保護者等向け評価を活用する等によりアンケート調査を実施して保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげているか	なないろになり、2回目の保護者アンケート調査を実施しました。いただいたご意見、意向を参考に業務改善に努めてきた結果、普段から多くの保護者の皆様と、より一層の意思疎通が図られ、意向等が把握出来る関係性が築かれて来ていると考えます。
	⑥ この自己評価の結果を、事業所の会報やホームページ等で公開しているか	保護者の皆様にお迎えの際など、いつでも自己評価の結果をご覧いただけるように玄関の中に掲示板を設置し、公表しています。
	⑦ 第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか	第三者委員会を設けていないため、第三者委員会による外部評価は行っていませんが、今後法人本部とも協議し設置に向けて検討します。
	⑧ 職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保しているか	湯沢市内及び秋田県内で行われる研修等には出来るだけ参加するように業務の中で工夫しています。また、参加し

			た研修について伝達研修をすると共に、月に一回必ず事業所内での職員研修を開催し、資質の向上に努めています。
適切な支援の提供	⑨	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成しているか	今年度はコロナ禍のため1回のみ面談ではありましたが、その他電話や子どものお迎えの時間を利用するなど工夫をして子どもや保護者からお話を聞くなど適切なアセスメントを行うよう努めました。その上でなないろ放課後等デイサービスの計画を作成しています。
	⑩	子どもの適応行動の状況を図るために、標準化されたアセスメントツールを使用しているか	使用しています。
	⑪	活動プログラムの立案をチームで行っているか	職員会議や日々の打合せで個別・集団での活動の様子を伝え合い、全職員で意見を出し合いながら、プログラムの立案に繋げ、活動内容を共有できるようにしています。
	⑫	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか	施設の周囲の環境から今年度は長期休み等は施設外での活動も計画していましたが、コロナ禍のため思うように実施出来ませんでした。その分、施設内で出来る季節の行事を工夫したり、日々の集団活動等でプログラムが固定化しないよう工夫を重ねています。
	⑬	平日、休日、長期休暇に応じて、課題をきめ細やかに設定して支援しているか	上記のことを含め、支援しています。
	⑭	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成しているか	集団活動を中心に子どもの状況に合わせて個別活動を組み合わせ、計画を作成しています。
	⑮	支援開始には職員間で必ず打ち合わせをし、その日の行われる支援の内容や役割分担について確認しているか	出来る限り支援開始前に打ち合わせをするよう努力をしています。非常勤職員とは時差出勤ということもあり、その都度こまめに伝達、確認することを徹底し、情報を共有しています。
	⑯	支援終了後には、職員間で必ず打ち合わせをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか	長期休み等は時間差で帰る職員もあり、終了後に必ず打ち合わせをすることは難しいこともありますが、それ以外はその日の支援内容の振り返りや保護者及び関係機関からの情報について必ず共有する時間を設けています。どうしても出来なかった日は翌日の朝の打合せにおいて

		必ず共有しています。
	⑰ 日々の支援に関して正しく記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか	日々徹底して記録することに努め、職員間での支援の検証・改善に繋がっています。
	⑱ 定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断しているか	定期的にモニタリングを実施し、計画の見直しをしています。
	⑲ ガイドラインの総則の基本活動を複数組み合わせる支援を行っているか	ガイドラインに沿って支援を行っています。
関係機関や保護者との連携	⑳ 障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしいものが参画しているか	児童発達支援管理責任者・管理者が参加しています。
	㉑ 学校との情報共有（年間計画・行事予定等の交換、子どもの下校時刻の確認等）、連絡調整（送迎時の対応、トラブル発生時の連絡）を適切に行っているか	その都度左記のような情報共有は行われています。学校との連絡協議会の場合、または長期休み中の先生方の訪問の機会にお願い等、やり取りを重ねることで適切に行えて来ている一方で、まだ情報共有出来ていない学校もあり、今後スムーズに行えるよう働きかけて行きます。
	㉒ 医療的ケアが必要な子どもを受け入れる場合は、子どもの主治医等と連絡体制を整えているか	利用を継続していた児童が、今年度途中から酸素吸入が必要となり、初めて医療連携という形で医療的ケア児を受け入れました。主治医から指示書をいただくとともに保護者を通して定期受診時等の主治医からの指示を正確に看護師に伝えるなど、連絡体制は整えていました。
	㉓ 就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めているか	利用前に保護者を通じて紙面等で必ず情報をいただけるよう依頼し、共有に努めています。
	㉔ 学校を卒業し、放課後等デイサービス事業所から障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等しているか	担当相談員を通して、要請があった時に提供しています。
	㉕ 児童発達支援センターや発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けているか	市内に児童発達支援センターはありませんが、市主催の未就学児を対象とする幼児教室等へ参加し、助言や定期的な研修を受けています。

	②⑥	放課後児童クラブや児童館との交流や、障害のない子どもと活動する機会があるか	放デイ利用保護者や近隣の児童クラブの職員・児童の相互理解が不可欠であるため、なかなか実現が難しいことが現状であり、課題です。開所してから数年を経ても、毎年児童クラブや障がいのない子どもとの交流や活動の機会は必要でないと考えている保護者が少なからずおり、放デイを利用する子ども達の特性等を互いに理解しあえていなければ交流は難しいのではないかと考えています。どうすれば保護者の皆様にも地域との交流の必要性等を理解していただけるのか、毎年の課題であると共に、障がいを持つ子どもたちの特性について分かりやすく伝える場や知る機会を作る方法を具体的に検討していかなければならないと考えています。
	②⑦	(地域自立支援)協議会等へ積極的に参加しているか	長期休み等は参加が難しいこともありますが、ほぼ参加しています。
	②⑧	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか	昨年度同様、家庭との連絡帳を活用すると共に保護者の送迎時の際や面談の際に利用児の様子を伝えたり、家庭での様子を聞いたりするなど、コミュニケーションを密にして共通理解に努めています。
	②⑨	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対してペアレント・トレーニング等の支援を行っているか	必要と思われる家庭・保護者に対しては、その都度支援を行っています。
保護者への説明責任等	③⑩	運営規定、支援の内容、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか	分かりやすく、具体的に説明するように努めています。
	③⑪	保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っているか	保護者の方からの相談には随時丁寧に応じています。
	③⑫	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援しているか	保護者会が設置されていないため、今後も課題であると考えています。保護者の中には「会そのものが無くてもよい」という方もおり、保護者の方々のご意見も伺いながら、まずは設置に向けて支援に努めます。
	③⑬	子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に	契約時や面談の際に、苦情受付について丁寧に説明すると共に、対応の体制は整備されています。

	対応しているか	
	③④ 定期的に会報等発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信しているか	毎月のお便りを必ず発行すると共に、子どもたちには前もって口頭や掲示などの方法で行事等予告をする等、必要に応じて情報を発信するよう努めています。
	③⑤ 個人情報に十分注意しているか	常に研修を重ね、個人情報に配慮することを職員全体で徹底しています。
	③⑥ 障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達の配慮をしているか	日々の打ち合わせ、記録を基に振り返り、気付きの中から子どもたちの行動の様子を見て一人一人の思いを汲み取れるよう、努力を重ねています。また、絵カードや写真を使って視覚的に情報が伝わるように工夫しています。併せて、保護者とも意思の疎通が図れるよう常に子どもの情報を伝えることは勿論のこと、保護者の話にも耳を傾け、会話を心掛けています。
	③⑦ 事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っているか	コロナ禍ということもあり、今年度も地域住民との交流は出来ませんでした。今後保護者、地域の方々から、どのようにして課題である相互理解を得ていくかを検討し、具体的に事業を計画して行く必要があると考えています。
非常時等の対応	③⑧ 緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアルを策定し、職員や保護者に周知しているか	事業所内では職員研修等を通して各マニュアルを周知すると共に、いつでも見られる場所に置いています。保護者には契約時や面談の際に分かりやすく説明するよう努力をしていましたが、昨年度の保護者向け放課後等デイサービス評価をしていただいた結果では「どちらとも言えない」という回答の保護者も数名おりましたので、今年度は更に丁寧に詳しく、理解していただけるような説明を心掛けて来ました。また、玄関カウンターに運営規定の他に各マニュアルを掲げていることも説明に加え、送迎等の際に読んでいただけるようにしました。
	③⑨ 非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか	隣接する法人本部と連携して、消防署に協力していただき、火災発生時の訓練を実施しました。また、年間計画の中にしっかり組み入れ、様々な災害や不審者対応等の訓練を実施しました。更に防災かるたを取り入れ、繰り返し行うことで、いざという時にどうすれば良いか指導しています。今後も利用児の特性を踏まえつつ、必要な避難訓練が実施出来るよう計画の立案、実施に努めます。

④①	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか	今年度も職員が「障害者虐待防止・権利擁護研修」を受講し伝達研修を実施するとともに定期的な事業所職場内での研修をすることで、適切な対応が来ています。
④②	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載しているか	身体拘束は絶対にしないことに決めているとともに、その旨を保護者にも説明しているため、計画には記載していません。
④③	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がなされているか	現在は食物アレルギーを持つ子どもは利用しておりませんが、利用前のアセスメント等を通じてしっかり把握すると共に、指示書に基づいて対応します。
④④	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有しているか	ヒヤリハットが報告された場合は報告書を作成し、必ず職員全員で検証し、事故に繋がらないように共有しています。

- ① 事業所の移転から一年数か月が経ちましたが、子どもたちは現在の場所でずっと過ごしていたかと思われるほど落ち着いて過ごす共に、新規の友達を迎えて、子どもたちが素晴らしい力と成長を感じさせてくれた一年となりました。
- ② 今年度も日々支援方法を振り返り、障がいの理解と子どもたち一人一人の特性理解に努めた支援が出来て来たと考えています。来年度も職員一人一人が緊張感を持ち、安全にサービス計画が遂行されるよう、より一層の資質向上に努めてまいります
- ③ 昨年度なかなか実施出来なかった避難訓練を計画的に進めることが出来ました。子どもたちの多くは日々の防災かるたなどを通して、常に様々な場面を想定しながら実際の訓練にもスムーズに参加することが出来ました。今後も隣接する湯沢市社会福祉協議会と協力や連携の下、実行して行きます。また、保護者の皆様にご心配をかけることのないよう、避難訓練の日程や様子を会報や通信の中でお伝えします。
- ④ 父母の会、保護者会の設置や近隣の児童クラブや障がいのない子どもたちとの交流、地域住民に開かれた運営等々、課題が引き続きたくさん残されています。今回の保護者の皆様へのアンケートの結果ではコロナ禍のためという回答を含め、児童クラブや障がいのない子どもとの交流や活動の機会は必要でないとの回答も前回よりも更に増え、保護者会も必要ないという回答もありました。放課後等デイサービスを利用する子どもたちの特性を互いに理解しあえていなければ交流は難しいのではないかと改めて考える結果となりました。

「地域の中で暮らす」ということを考える時、まずは近隣の児童クラブや障がいのない子どもたちとの交流や地域の住民との交流は必須であると思います。交流を進めるには障がいを持つ子どもたちの特性について分かりやすく伝える場や知る機会を作ってから交流することが望ましいのはもちろん、障がいを持つ子どもの保護者の理解も必要です。そのために私たち職員が出来ること、やるべきことは何かを保護者の皆様のご意見、ご意向を伺いながら、コロナ禍でもやれること、また、どのように進めるべきかを重ねて検討します。

- ⑤ 利用される子どもたち・保護者の皆様が安心して楽しく過ごしていただけるよう、また保護者の皆様に安心して仕事に専念していただけるよう、安全に十分配慮し、上記のことを中心に取り組み、引き続き支援の質の向上に努めてまいります。